

## 編集後記

本年の「日本文学紀要」は、昨年と同じく、九篇の論考によって構成することができた。執筆者に多少の変動はあるものの、昨年あるいはそれ以前からの継続した論究も少なくない。変化や改革を常に求められる現況にあつては、とりわけこの持続した営みを尊びたいのである。

「凡そ人生の歓楽に数はあれど学芸の妙趣ばかりこゝろゆくものはあらず。」から始まる上田敏の「細心精緻の学風」(『帝國文学』明二九・八)は、文字通り「学」と「芸」とに携わる者必読の文章だが、この書出しに続く「いたり深く識高まるにつけつゝ其秀拔超俗の味ひは愈々心に染みわたりぬべし。あながちに名聞利達を追ひ求めて、思ふがまゝの財を積みえたりとも、静逸なる人生の真趣は捉らへらるべきにあらず。」とある言葉のひとつひとつを、今ほど銘記すべき時はないように思う。

そしてまた、原稿の最初の読者として、細心の注意を払って不備を補いつつ文章の点検に当たってくださる編集室のあることは、研究の成果を世に送るための、他には得がたい大きな力であり、わたしたちの恵みである。そのご盡力に篤く御礼を申し上げます。(吉田)

### 編集委員

吉田 昌志  
茅場 康雄  
久下 裕利

### 学苑 八百七号

定価 八四〇円(本体八〇〇円)

購読料 一カ年分 一〇〇八〇円

(本体 九六〇〇円)

平成十九年十二月二十日 印刷

平成二十年一月一日 発行

編集発行人 竹 田 喜美子

印刷所 三 秀 舎

発行所 昭和女子大学

近代文化研究所

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂一ノ七

電話 03(3411)5300

☆掲載論文の無断転載を禁じます。